



2020年の東京五輪に向け、世界196カ国・地域をイメージした着物を制作する企画「キモノプロジェクト」で、目標の半分となる100着の着物が完成し29日、福岡県久留米市でお披露目会があった。

着物の魅力を見つめ直し伝統技術を世界に発信しようと、久留米市の老舗呉服店主、高倉慶応さん（50）が代表を務める一般社団法人「イマジン・ワンワールド」（同市）が2014年夏から取り組んできた。

地元の久留米緋（がすり）のほか、京友禅、加賀友禅など全国の着物作家が、各国の自然や文化をデザイン。久留米シティプラザでのお披露目会では、九州各県の高校生や専門学校生らがモデルとなり、ギリシャを先頭にステージ上で色鮮やかな100着をアピールした。